

< 青水の検証 >

「青水(グリーンウォーター)」とは、植物性プランクトンが水中に大量発生した状態の水(緑色)の俗称である。言うまでも無いが、魚類の主食はプランクトンであり、植物性プランクトンが大量発生している青水の状態は、魚にとって非常に良い環境であるといえる。また、青水には保温効果があり、屋外で魚を飼育する場合、多くのアクアリストが秋口から冬にかけて、青水の状態を大切に保つ傾向がある。意外に知られていない事実だが、魚の越冬は、青水飼育以外の方法で行なうことは出来ないのである。しかし、最近では、観賞魚用のヒーターが比較的安価で販売されており、屋内での越冬をする場合もあるので、その場合は青水でなくても可能である。このように、青水には様々な有益な効果がある一方、弊害もある。冒頭の「青水」の定義からも分かるとおり、結局のところ、植物性プランクトンの集まりなのである。植物性プランクトンは、「炭酸同化作用」と呼ばれる働きを持っており、水中の炭酸成分を同化してしまう。その結果、水の pH が上昇し、日本原産のほぼ全ての魚類が健全に生育できる pH 値の上限である、pH8.6 を越えてしまい、次第に、魚の調子が崩れていくのである。この弊害を防ぐ最も効果的な手立てとして、「ピートモス」を導入することが挙げられる。ピートモスとは、弱酸性の土のことで、園芸分野で頻繁に使用されている。入手は至って簡単で、ホームセンターや園芸店で手に入れることが出来る。値段もかなり安く、20で105円程度である。このピートモスを水中に適量入れることにより、水の pH を 7.0 付近に安定させることが出来る。また、ピートモスは「土」であるので、魚にとって、全くの無害である。但し、園芸店などでは、純粋なピートモスでは、やや強い酸性を示すので、石灰を混ぜて販売していることがある。石灰は、魚にとって有害なので、純粋なピートモスのみで構成されている商品を選ばないといけない。以上を踏まえ、青水には様々な効果がある一方、pH が極端に上がってしまう弊害があることを忘れてはならない。ピートモスと青水とをうまく組み合わせることによって、青水の本래の有益なパワーを発揮してくれるのである。皆さんの魚の冬越しの手助けとなれば、幸いである。

最後まで御覧下さり、ありがとうございました。